



今月のみさとし/家庭は国家の礎石であり、夫婦は人倫の大綱である。(ご聖訓第三巻 16頁)

令和3年 新年初会

新たな年を迎え、各道場で新年初会を催行

令和3年を迎え、1月5日午後1時より全国各地道場で新年初会が開催され、1日も早い新型コロナウイルスの終息を祈り、更なる発展の年としていくことを誓い合った。



岡野理事長発声による万歳三唱で新年を祝した（本部道場）

玄関に大きな門松が飾られた本部道場では、はじめに本部役員が御神前に整列し、岡野英夫理事長が年頭の挨拶に立った。講話では、岡野理事長がみ教えを生活に取り入れる大切さなどについて述べられた。最後に岡野理事長の声高らかな発声で万歳を三唱した。



万歳三唱を行い気持ちを新たに（御霊地道場）

暖かな陽に恵まれた御霊地道場では、検温・消毒など厳重な予防策を行い約70名が集った。出講の倉田正治理事は「若い人の力を借りて工夫する」「世界人類怨親平等供養を行う」「太陽の心で」を心掛け、秘義三法を行い自身の魂を磨き新しい形を模索していこうと呼びかけた。



喜び多い年とすることを誓い、万歳三唱（関西道場）

関西道場では、人数制限のもと83名が参集した。役員が正面に整列し、代表して渡辺孝彦顧問が挨拶した。

また、渡辺顧問は「本部布教活動方針のもと、会員が一丸となって前進して参りましょう」と力強く講話し、参加者は更なる発展に向けて精進を誓った。



服部常任理事を中心に新年の挨拶（中部道場）

中部道場では、約60名が参加した。

服部宇之輔常任理事が「新型コロナ感染拡大の中で本年を迎え、支部の大切さを振り返り、本部布教活動方針のもと、会員一人ひとりが家庭でみ教えの実践を心がけよう」と講話した。その後、服部常任理事の発声で万歳を三唱した。



早川常任理事よりコロナ禍での心構えを学ぶ（湘南道場）

湘南道場では、早川廣美常任理事を講師に迎え、神奈川、静岡両教区の支部代表約50名が集った。新年の挨拶の後、早川常任理事が神奈川教区長の福井恒明理事を中心に鈴木隆司地区相談役、川島和人静岡教区長の新体制で湘南圏域の布教活動を展開する旨を述べた。



世界平和と日本国の繁栄を祈念して万歳三唱（札幌道場）

札幌道場では、連日の厳しい寒さの中、参加者を限定して開催した。

最初に、出講の森下勇理事参与が年頭の挨拶を述べた後、各教区長及び圏域担当の山本吉朗指導員が挨拶に立った。

新型コロナ感染拡大の中、参加者は気持ちを新たにコロナ禍の終息を祈った。

令和3年 元旦祭

意欲と靈力を結集して、新年をスタート！

晴天に恵まれ、令和3年の元旦を迎えた御霊地では、新型コロナウイルス感染防止のため、元旦祭は常任理事以上のみで斎行し、会員は自由な時間に参拝を行った。

式典は、岡野英夫理事長の祝詞奏上。岡野理事長、渡辺孝彦顧問、早川廣美常任理事による玉串奉奠など神事を挙行。

年頭の挨拶に立った岡野理事長は「新

型コロナウイルスのワクチンや治療薬を頼みにするのではなく、神から授かった私たち自身もつ治療力を高め、靈力をもってこの難局を乗り越え、令和時代の3年目のスタートを力強く、そして希望にあふれた未来を築くために、公平で公正で豊かな国を目指し、一人ひとりの意欲、そして靈力を結集して金剛さまの教えを体して努力をさせていただきますよ



う」と述べられた。

恒例の五色うどんの販売や御神酒の接待は、コロナ禍のため中止となったが、参拝に訪れた会員は清々しい神気に触れての恵方参りとなった。

解脱鍊心館・新年祈願祭

50周年を迎え、更なる躍進を祈願

本年創立50周年を迎える解脱鍊心館では、1月10日午前9時30分より御霊地・太神社殿前にて、田中宏明館長をはじめ、解脱鍊心館指導者、門下生とその保護者らが参列して、新年祈願祭を厳粛に執り行い、本年の躍進と稽古の安全が祈願された。

田中館長は新年の挨拶で、「コロナ禍の中、健康管理に気を付けて頑張ってほしい」と、門下生を激励した。

終了後は、解脱鍊心館に移動し、道場前で全員の集合写真を撮影した。門下生たちは、翌日から15日まで新



型コロナウイルス感染防止が徹底された中、寒稽古に臨み、身心の錬磨に励んだ。

令和3年 青年初講座・成人式 (ブロック初青年会)

各地で晴れやかに新成人を祝福



東京ブロック

1月10日、岡野英夫理事長を迎え、本部道場の参加とリモート参加を合わせて16名の新成人者が参加した。メッセージムービーでは感涙する新成人の姿も見られ、成人者同士20歳を迎えられた喜びを共有した貴重な成人式となった。



北関東ブロック

1月10日、御霊地道場にて青年初講座を開催。リモートと会場を合わせて26名が参加し、本部より宮坂保徳教務局長が出講した。今期役員を紹介の後、新成人の紹介があり、講座終了後に太神社殿にて正式参拝を行い、成人者の活躍を祈念した。



関西ブロック

1月10日、新成人者3名の方が関西道場に、1名がリモートにて参加した。今回は成人者が産まれた年のクイズや歴史問題などを取り入れ、人気番組の『オールスター感謝祭』風のクイズ大会を行い、最後に成人者から一言ずつ抱負をもらった。



中部ブロック

1月9日、和やかな雰囲気の中、新成人が1人ずつ花束を持ちながら拍手喝采の中を入場した。山本英次道場長の祝辞の後、新成人代表の中島翼さん(名古屋仲田支部)が御礼の言葉、毎年恒例「二十歳の約束」を新成人3名が発表した。



神静ブロック

1月9日、青年初講座・成人式を湘南道場にて開催した。

出講の福井恒明理事は「人生には目標と目的と使命感が大事」「両親への感謝を伝えることが大切」と祝辞を述べた。

各自自治体が成人式の中止やリモート開催となる中、3名の新成人を直に祝福できたことを会場が一体して喜び合った。



西日本ブロック

1月10日、香川多度津支部にて成人式を開催し、会場には成人者1名、リモートで2名が参加した。出講の藤原了理事は、成人者に20年間に受けた恩について、またこれから恩返しをしっかりとするよう激励した。それに応えるように成人者がそれぞれ抱負を述べ、ご家族の温かい表情が印象的な成人式となった。



北海道

札幌道場では1月10日、道南教区の新成人者2名は都合がつかず不参加となったが、代理で参加した成人者の親御さん、成人者所属の鈴木秀男小牧豊川支部長(道南教区長)に記念の花束を贈呈した。鈴木教区長は、「来年以降も繋げ、成人者に参加してもらえるよう活動を頑張っていきたいと思います」と述べた。

令和3年度 青年幹部研修

新体制で新たな一歩を踏み出す

解脱会青年本部では、改選年度に伴い次期教区青年副部長以上が参加する「令和3年度青年幹部研修」を12月12日に開催した。

今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、例年1泊2日の予定を1日に集約し、「布教活動」「役目の自覚」「社会に向けた活動」をコンセプトに、御霊地・解脱研修センターをメイン会場に全国10カ所をつなぐオンラインでの研修となった。

午前中は、宮坂保徳教務局長の「布教活動方針」(録画動画)と岡野孝行青年本部長の講話で「青年部活動方針・主催行事」を確認した。前青年副本部長3名の退任セレモニーを行った後、事前学習として定められていた吉岡秀人氏(NPO法人ジャパンハート創設者)の著書『命を燃

やせ』や各自の行の実践に対する感想についてブロック毎にディスカッションを行った。

午後の吉岡氏の特別講話では、医師になったきっかけやジャパンハートの創設など、実践されてきた様々な活動についてご自身の体験を交えて述べられた。続いて行われたグループディスカッションでは、特別講話を受けて互いに命の尊さ

や大切さについての認識を深めた。

最後に岡野英夫理事長からの「訓示」(録画動画)を頂き、ブロック議長及び教区・地区青年部長による御神前での決意発表に続き、参加者全員で宝号千反を念唱し目標達成を祈願した。

コロナ禍の中で、初の試みとなったオンラインでの研修は、青年幹部をはじめ全国青年部が新たな一歩を踏み出すスタートとなった。



東京第4教区・修法研修

リモートで研鑽

東京第4教区では11月22日、御五法修業仲介者研修を行った。今回は感染予防を配慮して、支部長または支部で仲介を行っている人に参加者を限定して各所をリモートで結び、講話と質疑応答の

みの研修となった。当日はリモート参加10名、会場の大岡山支部には12名が参加し、感染予防を徹底して行われた。

研修では、代表1名による体験発表、『修法シート』を教本に教区修法担当員の講話に学んだ。最後の質疑応答では、各支部から問い合わせの多かったコロナ禍での御修業の実施について、本部から配布の「修法相談を行うにあたって」を参考



にし、支部で御修業を行う際に注意すべき事項の確認と質疑事項を交えながら意見交換と情報共有を行い、参加者の熱心な想いがみなぎる研修となった。

奉賛会体験

尊い考えを持つ先祖に導かれて

沖縄うるま支部 瑞慶山 純子



幼い時から母に連れられて通った横浜日吉支部。故石川平作先生が、穏やかに迎えてくれたのが良い思い出です。

そして沖縄へ嫁いで5年目の頃、3人の子供を抱えて慌ただしい中、環境の違いに馴染めず、精神的に限界にきていました。以前から実母に「沖縄の支部へ行って、感謝会だけでも出ささせていただくように」と言われており、5年かかってようやく沖縄道場を訪ねたのです。

沖縄道場で山田玉吉先生にお会いするなり、「実家に戻りたいのですが」と相談したのです。すると先生は、「飛行機に乗ればすぐに帰れる。私の話を聞いてからでも

遅くないから、来月もおいで」と言われ、その時は何故か納得したのです。

ある日、山田先生にお会いするために沖縄道場に向かう時、スピードを出していないのにスピード違反で捕まりました。憤慨した気持ちで先生にお会いした帰り、さらに車がレッカーで運ばれたのです。

お金が無かった私はレッカー代を山田先生に借りて、その翌日、お金を返しに行くと、山田先生から「どうだ、お金が入ってきたら？ 奉賛会に入りなさい」と言われたのです。「いやいやお金がないので。まして罰金も払ったばかり」とお断りすると、また「入ってきたら」と言われ、お金を借りたばかりで断りづらくなり、夫のお金で払うことを考えていたら、「いや、もっと入って

きてるはずだがなあ」と再び言われて、首を傾げていると「仕事が決まっただろう」と言われたのです。仕事が決まり、その月から私に収入があることを、先生は何故かご存じだったのです。

そんなご縁で夫婦で奉賛会へ入会して早30年。その後、義父、子供たち、昨年の沖縄うるま支部設立の際には、初孫の入会手続きをしました。今では親子孫9名の家族全員が奉賛会員です。

何年前かの奉賛会会報の体験談で「尊い解脱の教えを心から信じていることができる子孫にしてください」という言葉を見つけ、心に響きました。尊い考えを持つ先祖が、私を通じて金剛さまへの感謝の気持ちを奉賛会という形で表しているのではと思えて仕方ないのです。

最後に、亡き山田玉吉先生へのいっばいの感謝の気持ちで結びます。私は今もいつでも先生にお会いしたいです。

第17回 教区選抜実践作文コンクール最優秀3作品

「自分から進んで挨拶」をテーマとした第17回教区選抜実践作文コンクールの最優秀賞の3作品をご紹介します。同コンクールの表彰式は、昨年11月28日の第140回解脱金剛御生誕祭にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となりました。

尚、本会公式ホームページの「会員専用ページ」には、優秀賞、佳作の作品も紹介しています。

●最優秀賞

川合蓮（名古屋高蔵）
野瀬花帆（江戸川）
岡野有希（埼玉北本宿）

●優秀賞

矢嶋勇太郎（雑司ヶ谷）
木村湊（小田原城山）
高木陽菜（雑司ヶ谷）

●佳作

河野柊菜（兵庫西山崎）
田村彩瑛（立川柴崎）
鈴木菜月（名古屋大幸）

●努力賞

廣川翔鳳（南新宿）

中村咲紀子（中野）
須永桜（小田原管我）
西川謙次（兵庫波賀町）
原なごみ（多摩）

大久保愛未（荒川）
野瀬心花（江戸川）
高木颯大（雑司ヶ谷）
伊藤嘉音（名古屋鳴海）

宮嶋あみ（名古屋大閘通）
中村祐樹（長浜神前）
長尾和弥（神戸中央）
西浦とわ（神戸中央）

藤原彩花（兵庫滝野）
柏原咲良（南新宿）

廣川徳（南新宿）
太田大和（日野台）
澤田はな（日野台）
加藤そら（平塚御殿）

須永真男（小田原管我）
木村匡（小田原城山）
濱野花楓（小田原栄町）
須永百合（小田原管我）

伊藤綾音（名古屋鳴海）
川橋研吾（長浜神前）
畑野章（長浜神前）
森下あゆみ（神戸中央）
平岩菜々子（兵庫安積）
（順不同・敬称略）



=低学年の部 最優秀賞=

あいさつ

名古屋第1教区 名古屋高蔵支部
小学1年 川合 蓮

あさおきて「おはよう」っていうと、おかあさんがかえしてくれる。ねむくていわないときはいうまでおかあさんは「おはよう」といつづけます。

ごはんがおいしそうだから「いただきます」っていうとみんなえがおでたべます。

学校へいくときはかみさまに「いってきます」とてをあわせてからおかあさんに「いってきます」といってでかけます。ぼくはえがおであいさつするけど、ともだちがえがおであいさつをかえしてくれないとかなしいきもちになります。たまにはずかしいときはえがおがうまくできないときもあります。

つかれてかえってきたときは、おかあさんの「おかえり」をきくとちょっとげんきになります。

ごはんがおいしかったので、おいめたい

に「ごちそうさま」といいます。

ねるときはかみさまにてをあわせて「おやすみなさい」といいます。

一日にいろんなあいさつがあるけど、えがおであいさつするときもちがいいし、えがおでかえしてもらとうれしいきもちになるからこれからもあいさつをがんばります。



=中学年の部 最優秀賞=

チャンス

東京第6教区 江戸川支部
小学4年 野瀬 花帆

わたしは、朝起きると「おはよう」と元気にあいさつをします。食事の時には、「いただきます」「ごちそうさま」を感しゃの気持ちをこめて言い、学校へ行く時には、もっと元気に「行ってきます」と言って出かけます。友達にも、あいさつはしっかりできます。一日の始まりからあいさつをすることは、とても気持ちがいいことです。

でも、出来ていないことがあるという事を、自分ではっきりと分かっていました。それは、登校はんのメンバー、あまり知らない人や仲が良くない人に対しては、声が小さくなってしまったり、頭を下げるだけになってしまうことです。なぜそういうふうになってしまうのか、考えてみることにしました。

まず一つ目は、自分から声を出すのがはず

かしいからだと思いました。相手があいさつをしてきたら返そうと考えてしまい、声をかけやすい人だけにあいさつをしていたからです。

二つ目は、あいさつをしても相手から返ってこなかったら、いやな気持ちになるからです。心がきずついて自信がなくなってしまって、だんだんあいさつが出来なくなってしまったのだと思いました。

お母さんは、「あいさつとは、相手にそんけいや親愛の気持ちを表す言葉なんだよ。あいさつをすることは、自分が変わるチャンスにもなるんだよ」と言っていました。

次の日から、ゆう気を出して実せんしてみることになりました。登校はんでは、下級生の手本にならなければならないので、大きな声でボランティアさんにあいさつをすると、下級生もまねして大きな声であいさつをしてくれるようになりました。学校で、まだ仲のよくない人に自分から声をかけてみたら、新しい友達がふえました。家の近所には、犬をかっ

ている人が多いのですが、わたしのペットのさん歩中に声をかけてみることにしたら、何人もの人や犬と顔見知りになることが出きました。

今回、自分から進んであいさつを実せんしてみ分かったことは、あいさつをすることで気持ちの良い関係をきずけ、交友関係が広がり、顔見知りが増えることで、その土地・かんきょうで心地良くなるという事です。前より自分に自信が持てるようになり、何よりあいさつの大切さに、改めてきずくことが出来ました。わたしが、お母さんからあいさつの意味を教えたもらったように、今度はわたしがあいさつの大切さを周りの人に伝えていきたいと思いました。



=高学年の部 最優秀賞=

あいさつは魔法

埼玉教区 埼玉北本宿支部
小学5年 岡野 有希

あいさつには、色々な言葉があります。

朝起きて、おはよう、いただきます、ごちそうさま、行ってきます、と学校に行くまでの間にも、こんなに沢山のあいさつがあります。学校に行く時も、登校班のお友達や、地いきの人たちにも、あいさつをします。

今年から、登校班の副班長なので、進んであいさつはするようにしています。

授業の始まりと終わりには、必ず先生にもあいさつをします。英語の授業では、先生に

英語であいさつをします。

家に帰ってから、ねるまでの間にも、沢山のあいさつがあります。でも、面どうだとは思いません。元気であいさつが出来ればうれししい、すっきりするし、落ち着きます。私のあいさつで、周りの人たちが笑顔になってくれたら、すごくうれししいです。

それからもう一つ大事なあいさつが、あります。それは、ご神前でのあいさつです。以前は、足がいたくなるし、テレビが見たいのに、時間が長いから、好きではありませんでした。でも、おじいちゃんが亡くなってから、自分から先達をやりたいと思いました。

お母さんに教えてもらいながら、今では先達出来るようになりました。神様やお先祖

様に、ごあいさつをしても返事は聞こえないけれど、ちゃんとあいさつが、通じていると思います。

私がいさつをして、ほめられたことがありました。そのことを、お母さんに話したら「良かったね、ママうれしいよ」とよろこんでくれました。

あいさつは、人を幸せにしてくれる魔法だと思います。みんながいさつをして、気持ち良く過ごせたらいいと思います。

